

千葉東南部地区の遺跡群

森 本 和 男

はじめに

昨年度から、約10年ぶりに東南部地区の遺跡に携わることとなった。報告書をまとめる段階となり、東南部地区の遺跡群を調べていたら、まとまった遺跡一覧表が無いことに気がついた。『千葉東南部ニュータウン』の各報告書には、報告する遺跡に関連する時代の遺跡について、周辺遺跡分布図や若干のコメントが記されている。けれども、報告する遺跡と異なる時代については触れられることが少ない。また、遺跡に関するコメントもかなり短く、かつ簡便であった。数ある報告書の中で、岸本雅人氏がまとめた『千葉東南部ニュータウン20』には、古墳時代と歴史時代の遺跡内容、つまり遺構と遺物についてかなり詳細な一覧表が巻頭に付されてあった。残念ながら、この報告書は、有吉北貝塚の古墳時代から歴史時代に関する遺構、遺物を対象としていたため、岸本氏の作成した一覧表では、他の時代の遺跡に関して触れられていなかった。そこで、東南部地区の全時代を対象とした一覧表を作成し、さらに各時代ごとの遺跡、遺構の表を作ってみた。東南部地区の発掘調査は、開始されてからすでに四半世紀を過ぎた。発掘に関係された調査員の方も多いと思うので、参考にしていただければ幸甚である。

千葉東南部地区土地区画整理事業、さらに隣接して宅地造成のおこなわれている市原市千原台地区土地区画整理事業によって、多くの遺跡が発掘調査され、地域全体の考古学的様相が次第に明らかにされている。東南部地区の宅地造成は1970年頃（昭和40年代後半）に開始された。事業期間は1977年（昭和52年）5月11日から2005年（平成17年）3月31日までで、造成面積は605ha、計画戸数19,800戸、計画人口約80,000人である。20年ほど経て、現在造成はほぼ完了に近づきつつある。東南部地区は1984年（昭和59）に「おゆみ野」と名付けられて街びらきをし、15年後の1999年（平成11年）4月の時点で、世帯数は8,942世帯、人口は25,636人であった。つまり、まだ計画戸数で言えば45パーセント、計画人口で言えば32パーセントしか入居

していない。事業期間は約5年しか残っていないが、今後戸数、人口ともに増加すると思われる。ちなみに、隣接する千原台地区の造成面積は368.9ha、計画戸数12,180戸、計画人口約50,000人であり、1999年（平成11年）4月の時点で世帯数は3,763世帯、人口は12,465人であった。

東南部地区の造成地内にある遺跡に関しては、造成前に千葉市教育委員会が主体となって現地踏査を行ない、多数の遺跡があることが確認された。その成果にもとづいて遺跡調査の計画が立てられた。またその他に、造成中に発見された遺跡も数多くあった。現在までの約25年間に発掘された遺跡の数は、40ヶ所以上におよび（第1図、表1）、上層調査面積の総合計は約70ヘクタールにも達する。つまり、造成対象面積の1割以上を遺跡が占めていたことになる。元来、東南部地区は、台地に谷津が複雑に入り込んだ地形であった。従って、台地上の面積だけを考えると、遺跡の占めていた割合はさらに高くなり、台地全面に多く遺跡が存在していたと見て良かろう。保存された一部の遺跡を除いて、ほとんどの遺跡は調査終了後に破壊され、消滅してしまった。

発掘調査された遺跡について、まだ報告書がすべて刊行されていないので、各遺跡ごとに細かく検討を重ねることは無理である。ここでは、現在判明している遺跡群を、時代別に概略を述べるだけに止めておきたい。将来、修正および詳細な分析が必要となるだろう。

各時代の遺跡概略

旧石器時代遺跡は、東南部地区のほぼ全域から見つかっている（表2）。一ヶ所の遺跡から比較的多くの石器群が、いくつかの遺跡で確認されている。

縄文時代の遺跡は東南部地区全域で見つかった（表3）。早期の炉穴がほとんどの遺跡から検出され、多数の炉穴からなる炉穴群の存在する遺跡もあった。早期の遺跡は、造成地のほぼ全域に分布している。前期の遺跡は少なく、検出された遺構の数も少ない。住居



第1図 千葉東南部地区の遺跡群

跡が南二重堀遺跡，鎌取遺跡，有吉城跡第12地点で1軒，大膳野北遺跡で3軒検出された以外に，有吉遺跡，有吉北貝塚，春日作遺跡，神明社裏遺跡(b)で少数の陥穴と土坑，土器埋設遺構，土器包含層が見つかった。これらの遺跡の分布は，やや北部に集中している。有吉北貝塚，有吉南貝塚は縄文時代中期の大規模な貝塚

であり，多数の住居跡と小竪穴を伴う大集落が形成された。その他に中期の住居跡が高沢遺跡，南二重堀遺跡，鎌取場台遺跡，鎌取遺跡，有吉城跡第12地点，神明社裏遺跡(b)，小金沢貝塚，六通金山遺跡，御塚台遺跡(c)，ムコアラク遺跡(a)，大膳野北遺跡で検出されたが，いずれも軒数は少なく，小規模な集落であっ

た。拠点的な大集落である有吉北貝塚と有吉南貝塚を中心にして、その北側周辺に高沢遺跡、南二重堀遺跡、鎌取場台遺跡、鎌取遺跡、有吉城跡第12地点が位置し、南側に、神明社裏遺跡(b)、小金沢貝塚、六通金山遺跡、御塚台遺跡(c)、ムコアラク遺跡(a)、大膳野北遺跡が点在している。後期の貝塚遺跡として、上赤塚貝塚、木戸作貝塚、六通貝塚、大膳野南遺跡があげられるが、貝塚にともなう住居跡の軒数は少なく、中

No	遺跡名	遺構
1	有吉遺跡(3次)	住居跡(末期3)
1	有吉遺跡(4次)	住居跡(中期1)
41	バクチ穴遺跡	住居跡1

表4 千葉東南部地区弥生時代遺跡一覧表

No	遺跡名	遺構
1	有吉遺跡(1次)	住居跡(中期1、後期40)
1	有吉遺跡(2次)	住居跡(後期16)
1	有吉遺跡(3次)	円墳(後期2)、住居跡(後期5)
1	有吉遺跡(4次)	住居跡(後期8)
3	高沢遺跡	住居跡(後期141)
4	高沢古墳群	円墳(後期4)
5	生浜古墳群	円墳(後期7)
6	南二重堀遺跡	住居跡(前期~中期47)、土坑墓3
7	鎌取場台遺跡	住居跡(前期6、中期2)、方形周溝状遺構4、円形周溝状遺構2
8	鎌取遺跡	住居跡(中期27、後期2)
9	上赤塚貝塚・古墳群	古墳(中期6)
9	上赤塚1号墳	円墳(中期1)
10	有吉南遺跡	住居跡(後期24)
11	有吉城跡第7地点	竪穴遺構(後期1)
11	有吉城跡第8地点	住居跡(後期3)、土坑(古墳時代~歴史時代10)
11	有吉城跡第9地点	住居跡13、古墳1
11	有吉城跡第11地点	円墳(後期1)、方形周溝状遺構1、埋葬跡1、炭灰跡2
11	有吉城跡第12地点	住居跡(後期18)
11	有吉城跡第13地点	住居跡(後期2)
11	有吉城跡第16地点	古墳1
11	有吉城跡第17地点	古墳1
11	有吉城跡第26・28・30地点	古墳周溝跡(中期2)、土坑2、箱式石棺(中期1)
11	有吉城跡第28地点	古墳周溝跡(中期2)
12	有吉北貝塚	住居跡(後期94)、小鍛冶遺構(後期2)、野外炉跡(後期6)、土坑(後期2)、粘土採掘坑(後期1)、竪穴遺構(後期1)、溝(後期1)
13	有吉南貝塚(b)	住居跡4
14	馬ノ口遺跡	住居跡(前期19)、方墳(前期3)、円墳(後期6)
15	城ノ台遺跡(b)	住居跡(前期16、後期10)
15	城ノ台遺跡(c)	住居跡(前期2)
15	城ノ台遺跡(d)	住居跡(前期5、後期36)
15	城ノ台遺跡(e)	住居跡18
16	椎名崎遺跡	住居跡(後期46)、古墳4
17	椎名崎古墳群A支群(a)	円墳(後期2)
17	椎名崎古墳群A支群(b)	前方後円墳(後期1)、円墳(後期6)、横穴式石室(後期1)
18	狐塚	円墳(中期2)
19	人形塚(椎名崎古墳群)(b)	前方後円墳(後期1)、円墳(後期1)、住居跡(後期1)
20	椎名崎古墳群B支群(a)	帆立貝式古墳(後期1)、円墳(後期2)、木棺墓1、土坑墓7、土坑2
20	椎名崎古墳群B支群(b)	帆立貝式古墳1、円墳2
20	椎名崎古墳群B支群(c)	土坑(後期1)
20	椎名崎古墳群B支群(d)	古墳1、土坑墓42
20	椎名崎古墳群B支群(e)	古墳3、土坑墓3
20	椎名崎古墳群B支群(f)	古墳3、土坑墓27
21	椎名崎古墳群C支群(b)	円墳(中期1、後期26)
21	椎名崎古墳群C支群(d)	古墳周溝1
21	椎名崎古墳群C支群(e)	古墳周溝1
22	椎名神社遺跡	住居跡(前期1、後期1)、円墳1
23	木戸作遺跡(1次)	住居跡(後期21)
23	木戸作遺跡(2次)	住居跡(後期5)、方墳(後期1)
24	伯父名台遺跡(a)	住居跡(後期~平安53)、円墳3
24	伯父名台遺跡(b)	住居跡(後期~平安22)
25	今台遺跡(a)	住居跡9、古墳1
25	今台遺跡(b)	住居跡(後期1)
26	富岡古墳群	円墳(前期1)
26	富岡古墳群B支群	円墳2
27	春日作遺跡	住居跡12、竪穴遺構1、土坑墓2、土坑3、溝1
28	神明社裏遺跡(a)	前方後円墳(後期3)、古墳(石室のみ1)
28	神明社裏遺跡(b)	住居跡(後期1)、円墳4、方墳1
28	神明社裏遺跡(c)	円墳(後期2)
28	神明社裏遺跡(d)	住居跡4
29	小金沢古墳群(a)	後期古墳6(帆立貝式古墳1、円墳1、石室のみ3)
29	小金沢古墳群(b)	後期古墳11(前方後円墳3、円墳7)
29	小金沢古墳群(c)	住居跡(後期6)、円墳3、主体部のみ1、土坑墓2
33	(六通古墳群)	円墳(後期1)、方墳(後期1)
33	六通金山遺跡	円墳(後期1)、方墳(後期2)、住居跡(後期2)
34	六通神社南遺跡(c)	方墳1、石棺墓1
34	六通神社南遺跡(d)	方墳(後期2)
36	御塚台遺跡(a)	住居跡(後期~奈良9)
36	御塚台遺跡(c)	住居跡(後期31)、古墳3、石室1
36	御塚台遺跡(d)	住居跡(後期1)、石切場跡(後期1)
36	御塚台遺跡(第5次)	住居跡2、建物跡1
36	御塚台遺跡(第6次)	古墳周溝1、石室のみ2
37	ムコアラク遺跡(a)	住居跡(後期8)、後期古墳(前方後円墳1、方墳8)
37	ムコアラク遺跡(b)	住居跡(後期1)
37	ムコアラク遺跡10号墳	円墳(後期1)
38	太田法師遺跡	住居跡(後期9)、方墳(後期7)、土坑1
39	大膳野北遺跡	方墳(後期2)

表5 千葉東南部地区古墳時代遺跡一覧表

期の貝塚遺跡と同じ規模の大集落を形成していない。また、これらの遺跡は集中することなく散在している。晩期の遺跡は少ない。遺構もほとんど検出されておらず、小金沢古墳群(c)で後晩期の住居跡が見つかった他に、六通貝塚(c)、六通貝塚(e)、六通貝塚(f)、白鳥台遺跡で後晩期の土器包含層が調査された程度である。

弥生時代の遺跡はきわめて少ない(表4)。検出された遺構は住居跡で、有吉遺跡(4次)で中期の住居跡が1軒、バクチ穴遺跡で後期の住居跡が1軒、有吉遺跡(3次)で末期の住居跡が3軒確認された。

古墳時代の遺跡は、造成地の全域で多数分布している(表5)。複数の住居跡からなる前期の集落が南二重堀遺跡、鎌取場台遺跡、馬ノ口遺跡、城ノ台遺跡(b)、城ノ台遺跡(c)、城ノ台遺跡(d)で確認され、椎名神社遺跡でも前期の住居跡が1軒検出された。また、前期の円墳1基が富岡古墳群で、方墳3基が馬ノ口遺跡で調査された。前期の集落と古墳の関係については、馬ノ口遺跡で同時期に存在していたことが確認できたが、他の遺跡では共存しておらず、集落から離れた地点に古墳が位置していた。中期の集落は南二重堀遺跡、鎌取場台遺跡、鎌取遺跡で確認され、有吉遺跡(1次)でも住居跡が1軒検出された。これらの集落遺跡は東南部地区の北側に集中していた。中期古墳は、おもに円墳が上赤塚貝塚・古墳群、上赤塚1号墳、狐塚、椎名崎古墳群C支群(b)で調査され、有吉城跡第26・28・30地点と有吉城跡第28地点でも古墳周溝跡2基と箱式石棺1基が確認された。これらの古墳は、中期集落のやや南側に位置していた。後期の遺跡は、前期や中期の遺跡と比較してかなり多い。後期の集落は、東南部地区のほぼ全域に分布していた(表6)。この時

No	遺跡名	遺構
1	有吉遺跡(1次)	住居跡(中期1、後期40)
1	有吉遺跡(2次)	住居跡(後期16)
1	有吉遺跡(3次)	円墳(後期2)、住居跡(後期5)
1	有吉遺跡(4次)	住居跡(後期8)
3	高沢遺跡	住居跡(後期141)
8	鎌取遺跡	住居跡(中期27、後期2)
10	有吉南遺跡	住居跡(後期24)
11	有吉城跡第8地点	住居跡(後期3)、土坑(古墳時代~歴史時代10)
11	有吉城跡第12地点	住居跡(後期18)
11	有吉城跡第13地点	住居跡(後期2)
12	有吉北貝塚	住居跡(後期94)、小鍛冶遺構(後期2)、野外炉跡(後期6)、土坑(後期2)、粘土採掘坑(後期1)、竪穴遺構(後期1)、溝(後期1)
14	馬ノ口遺跡	住居跡(前期19)、方墳(前期3)、円墳(後期6)
15	城ノ台遺跡(b)	住居跡(前期16、後期10)
15	城ノ台遺跡(d)	住居跡(前期5、後期36)
16	椎名崎遺跡	住居跡(後期46)、古墳4
19	人形塚(椎名崎古墳群)(b)	前方後円墳(後期1)、円墳(後期1)、住居跡(後期1)
22	椎名神社遺跡	住居跡(前期1、後期1)、円墳1
23	木戸作遺跡(1次)	住居跡(後期21)
23	木戸作遺跡(2次)	住居跡(後期5)、方墳(後期1)
24	伯父名台遺跡(a)	住居跡(後期~平安53)、円墳3
24	伯父名台遺跡(b)	住居跡(後期~平安22)
25	今台遺跡(b)	住居跡(後期1)
28	神明社裏遺跡(b)	住居跡(後期1)、円墳4、方墳1
29	小金沢古墳群(c)	住居跡(後期6)、円墳3、主体部のみ1、土坑墓2
33	六通金山遺跡	円墳(後期1)、方墳(後期2)、住居跡(後期2)
36	御塚台遺跡(a)	住居跡(後期~奈良9)
36	御塚台遺跡(c)	住居跡(後期31)、古墳3、石室1
36	御塚台遺跡(d)	住居跡(後期1)、石切場跡(後期1)
36	御塚台遺跡(第5次)	住居跡2、建物跡1
36	御塚台遺跡(第6次)	古墳周溝1、石室のみ2
37	ムコアラク遺跡(a)	住居跡(後期8)、後期古墳(前方後円墳1、方墳8)
37	ムコアラク遺跡(b)	住居跡(後期1)
38	太田法師遺跡	住居跡(後期9)、方墳(後期7)、土坑1
39	大膳野北遺跡	方墳(後期2)

表6 千葉東南部地区古墳時代後期住居跡出土遺跡一覧表

期には、対象地域内のほとんどの台地上で集落が形成され、しかも、集落と古墳が共存している例が多い。集落に隣接せずに、単独に古墳だけで構成される遺跡もあった。古墳の墳形はバラエティに富み、前方後円墳、帆立貝式古墳、円墳、方墳の種類があり、数量的には円墳の数が最も多かった(表7)。

No.	遺跡名	遺構
1	有吉遺跡(3次)	円墳(後期2)、住居跡(後期5)
4	高沢古墳群	円墳(後期4)
5	生浜古墳群	円墳(後期7)
11	有吉城跡第11地点	円墳(後期1)、方形周溝状遺構1、埋葬跡1、炭窯跡2
14	馬ノ口遺跡	住居跡(前期19)、方墳(前期3)、円墳(後期6)
17	椎名崎古墳群A支群(a)	円墳(後期2)
17	椎名崎古墳群A支群(b)	前方後円墳(後期1)、円墳(後期6)、横穴式石室(後期1)
19	人形塚(椎名崎古墳群)(b)	前方後円墳(後期1)、円墳(後期1)、住居跡(後期1)
20	椎名崎古墳群B支群(a)	帆立貝式古墳(後期1)、円墳(後期2)、木棺墓1、土坑墓7、土坑2
21	椎名崎古墳群C支群(b)	円墳(中期1、後期26)
21	木戸作遺跡(2次)	住居跡(後期5)、方墳(後期1)
28	神明社裏遺跡(a)	前方後円墳(後期3)、古墳(石室のみ1)
28	神明社裏遺跡(c)	円墳(後期2)
33	(六浦古墳群)	円墳(後期1)、方墳(後期1)
33	六浦金山遺跡	円墳(後期1)、方墳(後期2)、住居跡(後期2)
34	六浦神社南遺跡(d)	方墳(後期2)
37	ムコアラク遺跡10号墳	円墳(後期1)
38	太田法師遺跡	住居跡(後期9)、方墳(後期7)、土坑1
39	大膳野北遺跡	方墳(後期2)

表7 千葉東南部地区古墳時代後期古墳一覧表

No.	遺跡名	遺構
1	有吉遺跡(1次)	住居跡(奈良39、平安82)
1	有吉遺跡(2次)	住居跡(平安5)
1	有吉遺跡(3次)	住居跡(平安4)、土坑2、方形周溝状遺構2、溝3
1	有吉遺跡(4次)	住居跡(平安7)、土坑1、方形周溝状遺構1、溝2
3	高沢遺跡	住居跡260、建物跡15、土坑6、溝8、製鉄跡2、
6	南二重堀遺跡	住居跡(奈良1)、方形周溝状遺構10、溝2
7	鎌取場台遺跡	地下式土坑1
8	鎌取場遺跡	方形周溝状遺構2、溝3、土坑2、地下式土坑7
9	上赤塚貝塚・古墳群	住居跡12、土坑8、溝・道路5
9	上赤塚1号墳	住居跡(平安1)
10	有吉南遺跡	住居跡(平安4)、土坑1
11	有吉城跡	土坑1、溝2
11	有吉城跡第8地点	方形周溝状遺構1、建物跡2
11	有吉城跡第9地点	住居跡16、土坑2、土壘1
11	有吉城跡第12地点	住居跡10、土坑3
11	有吉城跡第27地点	円形周溝状遺構1
12	有吉北貝塚	住居跡(奈良4、平安11)、火葬墓1
13	有吉南貝塚(b)	住居跡11
14	馬ノ口遺跡	溝19
15	城ノ台遺跡(d)	住居跡24
15	城ノ台遺跡(e)	住居跡(平安21)、土坑(平安23)、溝(平安17)、粘土採掘坑(平安8)、土器焼成遺構(平安5)
16	椎名崎遺跡	住居跡(奈良18、平安32)
17	椎名崎古墳群A支群(b)	住居跡1
20	椎名崎古墳群B支群(d)	住居跡6、地下式土坑6、方形周溝状遺構1
21	椎名崎古墳群C支群(b)	住居跡(平安23)
21	椎名崎古墳群C支群(d)	住居跡2、土坑9、土坑墓2
22	椎名神社遺跡	住居跡15、建物1
23	木戸作遺跡(1次)	住居跡(平安1)
24	伯父名台遺跡(a)	住居跡(古墳後期～平安53)
24	伯父名台遺跡(b)	住居跡(古墳後期～平安22)
25	今台遺跡(a)	住居跡42、建物跡25、小鍛冶跡1
25	今台遺跡(b)	住居跡15
27	春日作遺跡	住居跡3
28	神明社裏遺跡(b)	住居跡23、建物30、大形土坑1
28	神明社裏遺跡(d)	住居跡5、建物跡7、土坑7、溝1
29	小金沢古墳群(c)	住居跡6、方形周溝状遺構1、地下式土坑2
29	小金沢古墳群(d)	住居跡(平安2)
30	小金沢貝塚	住居跡(奈良1)
31	六浦遺跡	住居跡(平安3)
32	六浦貝塚(d)	住居跡3、製鉄跡1
32	六浦貝塚(f)	住居跡4
32	六浦貝塚(g)	住居跡2、溝2
33	六浦金山遺跡	住居跡(平安2)
34	六浦神社南遺跡(a)	方形周溝状遺構37、有天井土坑2
34	六浦神社南遺跡(b)	方形周溝状遺構7
34	六浦神社南遺跡(c)	方形周溝状遺構2、土坑墓1、溝1
34	六浦神社南遺跡(d)	方形周溝状遺構1、土坑墓1
36	御塚台遺跡(a)	住居跡(平安1)
36	御塚台遺跡(c)	住居跡34、堅穴遺構3、建物跡18、鍛冶跡2、方形周溝状遺構10、有天井土坑3
36	御塚台遺跡(第5次)	方形周溝状遺構3
36	御塚台遺跡(第6次)	住居跡(平安2)
37	ムコアラク遺跡(a)	住居跡(奈良19、平安16)
37	ムコアラク遺跡(b)	方形周溝状遺構1、有天井土坑1
37	ムコアラク遺跡10号墳	有天井土坑1、土坑5、溝3
38	太田法師遺跡	住居跡87、建物跡4、鍛冶炉2、土坑25、焼土遺構1、方形周溝状遺構4
39	大膳野北遺跡	住居跡(平安29)、土坑20、方形周溝状遺構3
40	大膳野南貝塚	住居跡(平安1)
41	バクチ穴遺跡	住居跡(平安8)、溝5
41	バクチ穴遺跡(a)	住居跡9、方形周溝状遺構8、土坑墓1、溝9

表8 千葉東南部地区歴史時代遺跡一覧表

No.	遺跡名	時代	遺構
1	有吉遺跡(1次)	時代不明	住居跡(25)、方形周溝状遺構(1)、土坑(6)
1	有吉遺跡(2次)	時代不明	円形周溝状遺構5
1	有吉遺跡(3次)	歴史時代	住居跡(平安4)、土坑2、方形周溝状遺構2、溝3
1	有吉遺跡(4次)	時代不明	土坑1、方形周溝状遺構1、溝2
4	高沢古墳群	時代不明	方形周溝状遺構1、溝2、土坑1
6	南二重堀遺跡	歴史時代	住居跡(奈良1)、方形周溝状遺構10、溝2
7	鎌取場台遺跡	古墳時代	方形周溝状遺構4、円形周溝状遺構2、地下式土坑1
8	鎌取場遺跡	歴史時代	方形周溝状遺構2、溝3、土坑2、地下式土坑7
11	有吉城跡第8地点	歴史時代	方形周溝状遺構1、建物跡2
11	有吉城跡第11地点	古墳時代	円墳(後期1)、方形周溝状遺構1、埋葬跡1、炭窯跡2
11	有吉城跡第27地点	歴史時代	円形周溝状遺構1
20	椎名崎古墳群B支群(d)	歴史時代	住居跡6、地下式土坑6、方形周溝状遺構1
24	伯父名台遺跡(b)	時代不明	土坑62、地下式土坑5、堅穴区画遺構5、円形周溝状遺構1、溝10
29	小金沢古墳群(c)	歴史時代	住居跡6、方形周溝状遺構1、地下式土坑2
30	小金沢貝塚	時代不明	方形周溝状遺構1、溝3
34	六浦神社南遺跡(a)	歴史時代	方形周溝状遺構37、有天井土坑2
34	六浦神社南遺跡(b)	歴史時代	方形周溝状遺構7
34	六浦神社南遺跡(c)	歴史時代	方形周溝状遺構2、土坑墓1、溝1
34	六浦神社南遺跡(d)	歴史時代	方形周溝状遺構1、土坑墓1
36	御塚台遺跡(a)	時代不明	方形周溝状遺構4
36	御塚台遺跡(c)	歴史時代	住居跡34、堅穴遺構3、建物跡18、鍛冶跡2、方形周溝状遺構10、有天井土坑3
36	御塚台遺跡(d)	時代不明	土坑2、有天井土坑2、方形周溝状遺構1、溝2、建物跡1
36	御塚台遺跡(第5次)	歴史時代	方形周溝状遺構3
37	ムコアラク遺跡(a)	時代不明	住居跡4、方形周溝状遺構6、溝13、土坑26
37	ムコアラク遺跡(b)	歴史時代	方形周溝状遺構1、有天井土坑1
38	太田法師遺跡	歴史時代	住居跡87、建物跡4、鍛冶炉2、土坑25、焼土遺構1、方形周溝状遺構4
39	大膳野北遺跡	歴史時代	住居跡(平安29)、土坑20、方形周溝状遺構3
41	バクチ穴遺跡(a)	歴史時代	住居跡9、方形周溝状遺構8、土坑墓1、溝9

表9 千葉東南部地区周溝状遺構出土遺跡一覧表

奈良時代から平安時代までの歴史時代の集落も、古墳時代後期の集落と同様に、東南部地区内のほぼ全域の台地上で検出された(表8)。このことは、古墳時代後期から歴史時代にかけて、人々の生活にさほど大きな変動がなく、居住地を変えることなく、数世代にわたって集落が存続したことを意味している。周溝状遺構に関しては、一般に出土遺物が少ないため、時代判定を決定しづらい。そのため、この種類の遺構を時代不明の遺構に分類する例がしばしば見受けられた。最近では、明白な根拠が無いまま、歴史時代の遺構として扱われているようである。周溝状遺構の検出された遺跡は、さほど集中することなく散在していた(表9)。集落と周溝状遺構が共存する遺跡はさほど多くなく、10ヶ所しかなかった。また、周溝状遺構には円形周溝状遺構と方形周溝状遺構の2種類があり、圧倒的に方形周溝状遺構の方が多かった。

中世遺跡として、有吉城跡から土坑や墓坑、有吉北貝塚から土坑墓、火葬墓等、さらにムコアラク遺跡から城郭跡が検出された。その他に溝、道路状遺構等が見つかった(表10)。中世の住居跡は見つかっていない。平安時代後半より台地上の堅穴住居跡が姿を消し、集落遺跡は断絶した。堅穴住居跡が消滅した原因として居住形態が急変したのか、人々の居住空間が台地上から他の場所へ移ったのか、定かではない。いずれにせよ、古墳時代後半から平安時代にかけて、数百年以上にわたって展開してきた台地上の集落は途絶えてしまった。人々の生活に大きな変化があったと考えられる。近世の遺構としては、塚や溝が遺跡から検出された。古墳を利用して塚に修築された例も報告されている。

No	遺跡名	時代	遺構
9	上赤塚貝塚	中世	土坑1, 溝1
11	有古城跡第13地点	中世	地下式土坑1
11	有古城跡第25・26地点	中世	集合墓坑
11	有古城跡第26・28・30地点	中世	土坑1, 溝3
12	有吉北貝塚	中世	土坑墓1, 火葬墓3, 地下式土坑3, 建物跡2, 棚列1, 土坑25, 竪穴遺構5, 溝1, 特殊遺構1
13	有吉南貝塚(b)	中世	土坑6, 道路2, 溝8
13	有吉南貝塚(c)	中世	溝17, 道路1, 土坑4
15	城ノ台遺跡(c)	中世	虎口(土壘)1
20	椎名崎古墳群B支群(f)	中世	土坑2
21	椎名崎古墳群C支群(b)	中世	土坑
21	椎名崎古墳群C支群(e)	中世	道路1
22	椎名神社遺跡	中世	竪穴状遺構1, 地下式土坑1, 土坑6, 溝3
24	伯父名台遺跡(a)	中世	竪穴区画遺構5, 堀2
25	今台遺跡(b)	中世	竪穴状遺構1, 溝3
27	春日作遺跡	中世	土坑1
28	神明社裏遺跡(d)	中世	溝5
29	小金沢古墳群(d)	中世	溝3, 甕土遺構2, 土坑7
32	六通貝塚(d)	中世	溝15
32	六通貝塚(g)	中世	土坑14, 溝9
34	六通神社南遺跡(c)	中世	溝1
37	ムコアラク遺跡(c)	中世	城郭(主廓, 虎口, 武者溜り, 堀, 土壘), 砂鉄採掘坑, 炭置場, 馬埋葬坑, 1
40	大膳野南貝塚	中世	溝14, 土坑1, 段整形遺構2
11	有古城跡第12地点	中近世	溝7
28	神明社裏遺跡(b)	中近世	溝8
32	六通貝塚(f)	中近世	土坑13, 溝10
2	古城・小弓遺跡	近世	塚1
3	高沢遺跡	近世	塚2
4	高沢古墳群	近世	塚4
11	有古城跡第7地点	近世	階段1
11	有古城跡第8地点	近世	土坑10, 塚2, 土坑墓1, 溝2
11	有古城跡第14・15地点	近世	塚1, 溝4, 整地面1
11	有古城跡第15地点	近世	道路状遺構1
11	有古城跡第28地点	近世	土坑6, 土壘1, 堀1, 溝6
12	有吉北貝塚	近世	溝・竪穴9, 竪穴遺構3, 土坑2, 不明遺構3
15	城ノ台遺跡(c)	近世	溝3, 棚列1, 炭室2
15	城ノ台遺跡(f)	近世	塚1
20	椎名崎古墳群B支群(d)	近世	溝3
20	椎名崎古墳群B支群(f)	近世	塚1
28	神明社裏遺跡(c)	近世	溝1
35	白鳥台遺跡	近世	溝4
36	御塚台遺跡(第6次)	近世	溝4
38	太田法師遺跡	近世	溝11, 炭焼窯1

表10 千葉東南部地区中近世遺跡一覧表

今後の課題

東南部地区の遺跡群の中で、調査の終了していない遺跡は合計11ヶ所あり(表11)、調査未了総面積は、少なくとも20ヘクタール以上ある。もちろん調査の終了していない遺跡には、保存の決まった遺跡も含まれていて、必ずしも残されたすべての遺跡が、調査された後に破壊される運命にあるわけではない。調査の完了した上層調査範囲の総面積70ヘクタールと合わせると、結局、遺跡の範囲は造成地全体の約15パーセント以上を占めていたことになる。遺跡によっては、調査されずに破壊されてしまった部分もあるので、遺跡の占めた面積の割合は、もっと高かったであろう。結局、東西約3km、南北約2.5kmの広さに40ヶ所以上の遺跡がひしめいていたのである。

No	遺跡名	未調査面積	遺跡内容	備考
7	鎌取場台遺跡	2,500	塚1	保存、東京都職員共済生浜運動場北部
9	上赤塚古墳群	9,200	古墳6(円墳6)	
9	上赤塚貝塚	13,000	貝塚	保存、一部公園化
11	有古城跡	77,820	集落、城	個人住宅地
12	有吉北貝塚	3,000	貝塚	保存、台地一部と斜面、公園化(第2公園)
13	有吉南貝塚	13,000	貝塚	保存、公園化(有吉貝塚公園)、一部神社
32	六通貝塚	38,896	貝塚	
15	城ノ台遺跡	42,260	集落	保存、公園化(大百池【オオドヤ】公園)
21	椎名崎古墳群C支群	12,000	古墳7(前方後円墳4, 方墳1, 円墳2)	保存、公園化
34	六通神社南遺跡	5,600		神社
40	大膳野南貝塚	22,500	貝塚	
合計	11遺跡	239,776		

表11 千葉東南部地区調査未了遺跡一覧表

宅地造成前、付近一帯には畑と山林が広がり、どちらかと言うと人煙の乏しい地域であった。国鉄(当時)外房線鎌取駅北側には鉄道に沿って大網街道が東西に走り、街道沿いに人家が並んでいた。けれども、駅の南側には鬱蒼とした森があちらこちらに広がっていた記憶がある。集落は谷地に挟まれた台地上や、谷津の最奥部に点在していた。造成前の1966年の人口は、有吉町253人、椎名崎町383人、六通261人、小金沢町64人、大金沢町162人、大膳野町376人で、合計わずかに1,499人であった。さほど人気のない畑地や山林に、これほど多くの遺跡が存在したとは、造成前に現地をざっと見渡しただけでは気がつかなかったであろう。このような利用価値の乏しい土地に、かつて人間が多く住んでいたとは、一般的感覚では想像できなかったはずである。そのような常識を覆し、縄文時代と古墳時代から歴史時代にかけて、多数の集落が営まれたことを明示できたのは、長年にわたって実施されてきた発掘調査のおかげである。人間は様々な土地に住みつき、その時代に依りて土地を活用してきた。現在、全く利用価値のないように見える場所でも、かつて大勢の人間が集い生きていたのだということを、調査によって証明できたのである。ここに埋蔵文化財調査の意義があると見えよう。

畑地や山林であった場所に、宅地造成によって再び大集落あるいは住宅街が形成されたのであるが、そこに住む大半の人たちは、大地に刻まれた変転を意識する機会は少ないだろう。「おゆみ野」の住民たちは、地元で生まれ育った人たちではなく、おそらく大部分の人が地元とは無縁であり、東南部地区の遺跡群の存在を知らずに、移り住んできたであろう。東南部地区の遺跡・遺物を宣伝する普及活動が、現在までに各種の企画として行なわれてきた。それ以外に、遺跡の内容を説明する案内板等が現地に存在したり、また、保存された遺跡の公園化も進められ(表12)、地元の人たちにとって遺跡や遺物を見て触れる機会が増えた。

内容	対象遺跡・遺物	
遺跡見学会	遺跡見学会(1985, 3, 24) 遺跡調査発表会(1992, 10, 25) 遺跡調査発表会(1993, 8, 28)	有吉北貝塚 千葉事務所、椎名崎古墳群C支群 有吉北貝塚、有吉南貝塚、上赤塚貝塚・古墳群
展示会	緑区役所展示会(1994, 8, 8~19) 緑区役所展示会(1995, 8, 7~18) 緑区役所展示会(1996, 8, 5~16) 緑区役所展示会(1997, 8, 5~15)	旧石器時代から奈良・平安時代までの遺物 縄文時代の遺物 古墳時代の遺物 旧石器時代から奈良・平安時代までの道具
遺跡表示板	プラスチック板 (予定) 石碑(千葉市) 石碑	六通神社南遺跡(竪穴式石室の説明) 太田法師遺跡(地名の由来説明) 有吉南貝塚 鎌取場台遺跡、塚(立入禁止)
公園	(駅前緑地) 第2公園 有吉貝塚公園、日枝神社 大百池公園 (緑地)	有吉北貝塚(一部) 有吉南貝塚 城ノ台遺跡 椎名崎古墳群C支群(一部)
神社	六通神社	六通神社南遺跡(一部)

表12 千葉東南部地区遺跡・遺物普及活動一覧表

けれども、今後は遺跡発掘調査の件数が減り、遺跡見学会や遺跡調査発表会等の企画も困難となるであろう。現在、出土遺物の整理や報告書作成を行っている調査事務所も、いずれは閉鎖されてしまい、遺跡の状況を語れる調査員もどこかへ去ってしまう。新生都市「おゆみ野」の現人口は、計画人口の半分にも達しておらず、将来さらに人口が増えると考えられる。これから越して来る新しい住民は、遺跡の存在、つまりかつてこの地域一帯に多数の人間が暮らしていたという歴史的事実を、遺跡案内板や公園によってしか気がつかないだろう。

もちろん、遺跡・遺物を記録した調査報告書が今までに多数刊行され、これからも続けて刊行される予定である。しかし、それらの報告書の内容は一般の人たちにとって難解であるだけでなく、実際に報告書を手にする機会もほとんど無い。それらの報告書は公立図書館に置かれているので、図書館に行かない限り読め

ない。また、購入しようにも、値段が高価であったり、購入手段があまり知られていない。遺跡報告書は、多くの人に読み親しまれるような類の本ではないのである。結局、新しく移り住んで来た人たちは、大地に刻まれた歴史について気がつく機会が少なく、生活している環境に思いをはせることが困難なのである。出土した遺物を地元の施設で収納展示する予定は、今のところない。恒常的な収納展示施設を建設するのが無理であるならば、区役所等の公共施設の一角、あるいは少子化の影響で余った学校の教室等を利用して、展示するのも一計であろう。そのような手段以外に、住民たちが消滅した多数の遺跡と触れ合う機会は、おそらく永久にないだろう。発掘調査を行政サービスの一種として考えるならば、サービスの対象者として最も重視しなければならない人たちとは、最終的に住宅を購入した住民たちだと思う。